

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2015年7・8月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第566号

30年以上にわたり、2004年まで神奈川の公立高校で社会科教員をやってきました。20代で初めてクラス担任になったとき、5月の連休明けに家出をし、そのまま学校へ来なくなった生徒が学校を退学しました。彼はいわゆる「不本意入学」で、地域では人気のあるこの高校ではなく、ほんとうは専門学校へ行きたかったのです。親の「とにかく高校を卒業してから考えればいい」という考えに抗しきれず、「とりあえず進学」したので。しかし、はじめの思いと違う高校の現実で退学の道を選んだのです。

この出来事をきっかけに、当時はまだ言葉もよく知られていなかった「登校拒否」に関心を持ち、文部省(当時)主催の「教育相談」研修まで受けて、問題に対処しようと考えてきました。その後、大塚YMCAの先輩で、「登校拒否生徒のための学級」(横浜市)の中学でこの「相談指導学級」は、通称「永田学級」とよばれた。)を日本で初めて開いた永田實先生に出会って、I. イリイチの「非学校化論」(日本でははじめの翻訳の時『脱学校の社会』と訳されたため、この用語が定着

している)を教えられました。その後、横浜市内の登校拒否児の「スペース」で、イリイチの読書会をやったりしました。

イリイチはカトリックの司祭で、米国のプエルトリコで、貧困の中の子どものための教育を実践し、そのプログラム作りをしていたとき、小学校の教員であったエヴェレット・ライマーと出会い、長い

「登校拒否」から「子どもの貧困」へ

関東連管委員

武田 利邦



ない子どもたちと学校(からさらに大学まで)を経験した子どもたちとの間に越えがたいギャップを作り、学校に行かれなかった子どもたちには、大きな不全感を植え付ける役割を果たしている、ときづいたのです。そして、「近代化」に伴って成立した「学校」システムの終わりを告げました。

討議の末、「学校教育による貧困の克服」という問題の立て方に疑問をもつようになつたのです。(イリイチの「非学校化論」については『キリスト教教育事典』日本基督教団出版局、2010年に書きましたので参照して下さい。)学校というシステムそのものが、世界の半分を超える(1970年代)発展途上国を中心とする学校へ行かれ

学文社(1991年)以来「不登校」という語が定着)問題は好転するどころか、特に中学・高校での「不登校」から高校中退へ、という流れは解消せず、ついに文科省は先ごろ「不登校生徒のフリースクールやスペース」に財政的な支援をすると発表しました。もちろんこれは先進国に共通の問題で、アメリカでは公立学校からの離脱者が500万人を超えるという数字もあります。

この問題提起は、大きな議論を巻き起こします。いままでは、フランスのブルデューの『再生産』(邦訳は1991年藤原書店。「教育は階級の再生産のための装置であり、象徴的に暴力である。」)の議論などといまって教育学、教育社会学などの分野で「近代学校システムの克服」という問題は避けられない大きなテーマになっています。

このころから約半世紀「登校拒否」(現在では森田洋司著『不登校』現象の社会学)

この状況に「いじめ」問題や、さまざまな学校をめぐる子どもの暴力事件(しばしば死にいたる)が、追い打ちを掛けました。(この点について『カタルシス』としてのユーモア―いじめ状況から共生の祝祭へ)を講座『現代キリスト教倫理』第3巻「日本に生きる」(日本基督教団出版局1999年)に書きました。

いま、残念ながら問題はより深刻化した形で学校の内外に「子どもの貧困」という現象を引き起こしています。教育内在的なこれらの問題に、多くの方々に関心をもっていただくことが第一歩だと思います。

(農村伝道神学校講師)

関東活動センター新規プログラム

●関東フォーラム 宗教対話II

「礼拝のためのボイストレーニング」
『ことば』を届けるために



「分かりづらい聖書朗読、聞き取りにくい説教……。礼拝で『ことば』を語るために、私たちはどれくらい心を配り、備えているでしょうか。礼拝にふさわしい声と言葉は、ちよつとしたトレーニングで、見違えるほど変わって行きます。神さまからいただいた道具である声を、一緒に鍛えてみませんか？」

の礼拝奉仕者のためのプログラムです。講師は、声優で、ラジオのパーソナリティーなどもして来られた友野富美子さん。日本聖書神学校を卒業した牧師でもあります。発声発語訓練に始まり、聖書朗読説教の発声訓練などに取り組みます。

日本キリスト教会館が耐震改修工事中ですので、日本聖書神学校キリスト教研究所の協力を得て、目白にある日本聖書神学校を会場に、連続5回シリーズで行われます。費用は、この類のものとしては破格の3000円(至5回分)です。どうぞどなたでも奮ってご参加ください。(戒能信生)

日時 2015年9月28日、10月5日、12日、19日、26日(いずれも月曜日、午後3時から5時)

関西セミナーハウス活動センター

●2014年度 修学院フォーラム「福祉」第3回

「葬儀と墓」は誰のために、何のために
～キリスト教と仏教の立場から考える～

頌栄短期大学准教授 塚本 潤一さん
浄土宗 龍岸寺住職 池口 龍法さん

2015年3月7日(土)



私たちは突然、家族や知人の死の現実と向き合わないといけないことがある。そのような突然の時のために、葬儀や墓について、熟考する機会を持つておくことは必然のことである。近年の社会的風潮として、葬送儀礼を簡略化しようとする傾向があり、葬式を行わない「直葬」や、近親者のみで執り行う「家族葬」が増えている。時代とともに葬送儀礼の形が変わるのは当然

然のことなのかもしれないが、単に商業ベースに乗せられて葬送儀礼を執り行うのではなく、葬送儀礼の本来のあり方に立ち返り、葬儀や墓は何のためにあるのかを考える機会となった。

塚本牧師、池口住職という宗教者からの現場での体験をふまえた現状分析と将来への提言は学ぶべきことが多かった。参加者が葬儀や墓とは何かを根本的な意義に立ち返つ



て熟考し、自らの問題として現実に考えることができたと。

はなしあいの時では、宗教者、葬儀社に勤務する方や医師、カウンセラーがいらっしゃり、意見交換ができたことも実りがあったと言える。これまでには類を見ないであろうこのテーマでの二つの宗教の立場からの提言という形も良かった。喪失の悲しみの中では冷静には考えられない問題だからこそ、日常的に葬儀や墓のことを家族や知人と話し合っておきたいものである。

関東活動センターからのお知らせ

日本キリスト教会館耐震工事中(～2016年2月予定)は、事務所には立ち入れません。事務所にご利用の方は、お電話、電子メールでご連絡をお願いいたします。郵便は、通常の住所宛て届きます。





脳死・臓器移植においてシビエントの切実なる訴え、ドナーからの臓器摘出の現場映像、ラザロ兆候の映像など、視覚を使った説明によって、マスコミ操作のためわれわれは移植で助かる人にしか眼を向けていない。しかし臓器移植は、その前に臓器を摘出される人がいることを忘れてはならない。本当にドナーとされる人は死んでいると言えるのか。小松氏は、ラザロ兆候や長期脳死者の事例をあげて脳死者の生を論じた。さらにフーコーやアガンベ

ンといった現代思想家を参照しつつ、生権力に議論が進み、権力側によって生み出されるホモ・サケル(殺しても良い人間)の議論から、現代の脳死者はまさにホモ・サケルとして生み出されたと言う。これに対し小松氏は人間の生において健常者と脳死者、無脳症児などの間に裂け目をいれることに反対し、いづれも人間の生として認めるよう述べた。また西洋の「人間の尊厳」概念が、理性や何らかの能力に基づいて理解されてきた歴史を批判し、ただ生きていくだけの尊厳、他者とともに生きる生こそが人間の尊厳であると論じた。

質疑も活発に行われ、延命に意味があるのか、移植を受けた人に対して何と云うのか、医者は移植時にしか関わらないがその後の人生はどうか、等の意見が出された。

●2015年度 修学院フォーラム「いのち」第1回
「なぜ、脳死・臓器移植は推進されるのか
—いのち・倫理・人間の尊厳をめぐる—」

武蔵野大学教養教育部会教授 小松 美彦さん
2015年5月16日(土)



晴天に恵まれた新録の中、セミナーハウスのお茶室で参加者が順次抹茶をいただいた。雨上がりの緑が池に映り森青蛙(モリアオガエル)の卵が池の上の木に産み付けられており、茶心を和ませてくれた。「お茶の心とキリスト教」について午前中、杉野先生から講義を受けた。1549年ザビエルによってもたらされたキリスト教と共に西洋文化に触れ、日本人にとって、その生活、宗教に新しい時代が始まった。講師の収集している「踏み絵」や「魔鏡」十字架の隠された「茶碗」

●2015年度「お茶のころと宗教のころ」第1回
「初夏の茶室とバスで巡るフィールドツ
アー 京都のキリシタン史跡を訪ねて」

日本バプテスト連盟京都洛西教会協力牧師 杉野 榮さん
2015年6月6日(月)

などの実物を示され興味を引いた。午後は、キリシタンの迫害の跡を巡るバスによるフィールドツアー。一条戻橋、慶長天主堂跡を始め、堀川四条「26聖人発祥の地」(フランススコ会の信者による福祉活動が弾圧に遭い、ここから長崎まで連行され処刑された)、秀吉を祀る豊国神社、その前にある秀吉による朝鮮出兵での「戦果」として持ち

帰った朝鮮人の鼻や耳を葬った耳(鼻)塚、秀吉の命でキリシタン52名が火刑された川端正面通りの「元和殉教碑」など痛ましい歴史の後を解説していただきながら廻ることができた。



賛助会費・寄付金報告(1)

2015年5月1日～2015年5月31日
(順不同・敬称略)

◆財団本部		
賛助会費(終身会員)		
島田 恒		100,000
寄付金		
日本基督教団早稲田教会		25,000
◆関東活動センター		
賛助会費		
千葉 拓司		5,000
西浦 昭英		2,000
高橋 浩		5,000
平野 正		5,000
市川 邦雄		5,000
道正 洋三		5,000
中井 博雅		10,000
石山 聆子		2,000
武藤 陽一		5,000
斉藤 宏		5,000
横野 朝彦		25,000

次ページに続きます。

プログラム案内

◆関東活動センター

■聖書講座 2015「新しい聖書の学び」

「イエスの譬え話」に響く声(全10回)

講師：山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：⑤9月8日⑥10月13日⑦11月10日、火曜 18:30~20:00

会場：早稲田教会ロビー

参加費：1,200円/学生500円

テキスト：『イエスの譬え話1』

共催：早稲田奉仕園

■関東フォーラム宗教対話 I

第3回「R. L. カーソン『沈黙の春』(新潮文庫)」

日時：9月25日(金)18:30~20:30

講師：武田利邦さん(農村伝道神学校講師)

会場：早稲田教会ロビー

参加費：500円(4回連続1,500円)

■関東フォーラム「今日的課題」

「自死」に遭遇した人への慰めとは一牧会の現場から第2期(全5回)

講師：賀来周一さん(キリスト教カウンセリングセンター相談室長)

日時：③9月14日④10月5日⑤11月9日、月曜 14:00~16:00

会場：日本聖書神学校

参加費：1回2,000円

定員：10名(先着順、要申込み)

協賛：日本聖書神学校キリスト教研究所

■関東フォーラム宗教対話 II

財団本部 http://www.academy-nippon.com
関東活動センター http://www.academy-tokyo.com
関西セミナーハウス
http://www.kansai-seminarhouse.com/
関西セミナーハウス活動センター
http://www.academy-kansai.org

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 小久保 正

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館 6 F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

『ことば』を届けるために 礼拝の
ためのボイストレーニング(全5回)

講師：友野富美子さん(日本キリスト教団八王子栄光教会担任教師、声優)

日時：9月28日~10月26日、
毎週月曜 15:00~17:00

会場：日本聖書神学校

参加費：3,000円(全5回分)

定員：20名

共催：日本聖書神学校キリスト教研究所

◆関西セミナーハウス 修学院きらら山荘

■能を楽しむタペ in 修学院きらら山荘

第24回 能『清経』

日時：8月1日(土)14:00~
解説・出演：林宗一郎さん(観世流
能楽師)

会場：関西セミナーハウス

各定員：50名

能観賞料金：2,000円/学生1,000円

※今回茶室での懇親会はありません。

■月釜 清心会

日時：9月13日(日)
9:00~15:00 受付(1、8
月を除く年10回)

於：関西セミナーハウス

年会費：5,000円、臨時会費1,000円

◆関西セミナーハウス活動センター

■2015年度 開発教育セミナー

第3回「子どもの貧困 ~私たちの

社会に何がおこっているのか？」

講師：中塚 久美子さん(朝日新聞生活文化部記者)

浜田 進士さん(児童自立援助ホーム「あちんの家」副理事長兼ホーム長)

日時：9月12日(土)16:00~
13日(日)12:00

会場：関西セミナーハウス

会費：10,500円(1泊2食込)

■2015年度修学院フォーラム「いのち」

第2回「赤ちゃんがほしい! 不妊治療の進歩は、本当に女性に恩恵を与えているのでしょうか~産科医の立場から」

講師：川北かおりさん(西神戸医療センター産婦人科医長 周産期センター長代行)

日時：9月26日(土)
13:30~17:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：一般2,300円、学生1,000円

■「エキュメニカル・ネットワーク」

第1回協議会(共催プログラム)

日時：8月24日(月)14:00~
25日(火)16:00

会場：関西セミナーハウス

会費：15,000円、学生10,000円
(宿泊費・食費・懇親会費・資料代他)

主催：エキュメニカル・ネットワーク < E - n e t >

賛助会費・寄付金報告(2)

2015年5月1日~2015年5月31日
(順不同・敬称略)

◆関東活動センター

寄付金
匿名 4,100
中井 博雅 10,000
木岡 毅 4,000
中島 健二 20,000

神学生交流プログラム募金

千葉 拓司 5,000

◆関西セミナーハウス

寄付金
武藤 高司 12,000
森口 克洋 20,000
中井 博雅 30,000
小久保 正 10,000

◆関西セミナーハウス活動センター

賛助会費
鳥井 清司 5,000
森 正幸 10,000
榎本 璋子 5,000
河本 有紀子 10,000
内藤 弘子 5,000
手銭 秀夫 5,000
大森 正子 3,000
宮田 満雄 3,000
新井 正治 3,000
田辺 信子 5,000
岡山 孝太郎 5,000
喜多村 やよい 5,000

梅山 猛 10,000
春名 康範 10,000
陶村 世佳子 5,000
医療法人わたなベクリニック 10,000
五十嵐 万里子 5,000
菅 恒敏 5,000
新宗連大阪事務所 生田茂夫 10,000
公益財団法人京都YMC A 10,000
松田 光代 5,000
大谷 光真 5,000
根岸 宏邦 10,000
島田 誠一 5,000
竹中 百合子 5,000
岡野 彩子 5,000
早川 良彌 5,000
植村 敏子 5,000
關岡 一成 5,000
山岡 義生 5,000

寄付金
小久保 正 100,000
日本基督教団長岡京教会 10,000
新井 正治 2,000
北野 宗香 3,000
中井 博雅 10,000
株式会社社ころ 10,000
藤倉 寿美子 3,000
早川 良彌 5,000
山岡 義生 5,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。